

本歯科技工学会第28会学術大会, 広島, 2006. 9.17-18, 日本歯科技工学会雑誌, 27 : 235, 2006.

- 15) 那須真樹子, 石田陽子, 沼奈津子, 野村修一, 織田公光: 低ホスファターゼ症における突然変異型アルカリホスファターゼ R433C の解析. 第48回歯科基礎医学会学術大会, 横浜, 2006. 9.21-23, Journal of Oral Biosciences, 48 : 168, 2006.
- 16) 吉田恵子, 魚島勝美, 羽下麻衣子, 鈴木晶子, 野澤-井上佳世子, 野村修一, 前田健康: 温熱刺激がラット骨組織に及ぼす影響に関する組織化学的検索. 第48回歯科基礎医学会学術大会・総会, 横浜, 2006. 9.21 - 23, 歯科基礎医学会雑誌, 48 (抄録集) : 127, 2006.
- 17) 岡田直人, 野村修一, 目黒真依子, 田口裕哉, 飛田滋, 野村章子: 要介護高齢者の義歯着脱補助具の試作. 日本補綴歯学会関越支部総会ならびに学術大会, 新潟, 2006.10.21, 平成18年度日本補綴歯学会関越支部総会ならびに学術大会プログラム・抄録集: 9, 2006.
- 18) 目黒真依子, 野村修一, 岡田直人, 田口裕哉, 野村章子: 義歯着脱操作の客観的評価の試み. 日本補綴歯学会関越支部総会ならびに学術大会, 新潟, 2006.10.21, 平成18年度日本補綴歯学会関越支部総会ならびに学術大会プログラム・抄録集: 10, 2006.
- 19) 吉田恵子, 魚島勝美, 羽下麻衣子, 野村修一, 前田健康: 骨基質への温熱刺激が骨形成に与える影響. 平成18年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2006.11.11, 新潟歯学会雑誌, 36 : 111, 2006.
- 20) 那須真樹子, 石田陽子, 沼奈津子, 織田公光, 野村修一: ジスルフィド結合で架橋された組織非特異型アルカリホスファターゼ R433C の解析. 平成18年度新潟歯学会第二回例会, 2006.11.11, 新潟歯学会雑誌, 36 : 108-109, 2006.

#### 【研究会発表】

- 1) 金谷 貢, 岡田直人, 熊倉喜久夫, 山野井敬彦: 第2回ワークショップ. 新潟県歯科技工士会新潟支部学術研修会, 新潟, 2007. 3.18.

#### 【その他】

- 1) 野村修一: 口腔機能を評価するための基礎知識②. 平成18年度新潟大学歯学部公開講座【介護予防のための「口腔機能の向上」入門講座】, 新潟, 2006. 7.11.
- 2) 佐藤一夫: アドバンス編・専門外来診療の理解・GPとの連携模索編 歯科用レーザーの現状と未来. 平成18年度歯科研修医セミナー, 新潟, 2007. 2.21.

## 歯科矯正学分野

### 【論文】

- 1) Chen F, Terada K, Hanada K, Saito I.: Anchorage effect of palatal implants under various forces: A Finite element study. Orthod Waves, 65:1-8, 2006.
- 2) Chen F, Terada K, Hanada K, Saito I.: Anchorage Effect of osseointegrated vs nonosseointegrated palatal implants. Angle Orthod, 76:660-665, 2006.
- 3) Chen F, Terada K, Liping W, Saito I.: Longitudinal evaluation of the intermaxillary relationship in Class III malocclusions. Angle Orthod, 76:955-961, 2006.
- 4) Chen F, Terada K, Liping W, Saito I.: Dental arch widths and mandibular-maxillary base width in Class III malocclusions with low, average and high MP-SN. Angle Orthod, 77:36-41, 2007.
- 5) Chen F, Terada K, Hau Y, Saito I.: Effects of bimaxillary surgery and mandibular setback surgery on pharyngeal airway measurements in patients with Class III skeletal deformities. Am J Orthod Dentofacial Orthop, 131:372-377, 2007.
- 6) Jabbar S, Harada F, Aita M, Ohishi M, Saito I, Kawano Y, Suzuki A, Nozawa-Inoue K, Maeda T.: Involvement of neurotrophin-4/5 in regeneration of the periodontal Ruffini endings at the early stage. J Comparative Neurology, 501:400-412, 2007.
- 7) Binte Anwar R, Tanaka M, Kohno S, Ikegame M, Watanabe N, Nowazesh Ali M, Ejiri S.: Relationship between Porotic Changes in Alveolar Bone and Spinal Osteoporosis. J Dent Res, 86:52-57, 2007.
- 8) 松久淳子, 山田一尋, 福井忠雄, 新部洋史, 齋藤功, 河野正司: 骨格性下顎前突患者における咬筋および側頭筋の筋活動分析. 日顎変形誌, 16:147-152, 2006.
- 9) 山中文文, 福田純一, 高木律男, 児玉泰光, 津端久美子, 中村順一, 齋藤 功: 上顎歯列弓狭窄を伴う顎変形症に対して, Le Fort I型骨切り術に口蓋傍正中分割を加えた2例. 日顎変形誌, 16:16-22, 2006.
- 10) 小野和宏, 大内章嗣, 魚島勝美, 林 孝文, 西山秀昌, 安島久雄, 小林正治, 瀬尾憲司, 齋藤 功, 程 君, 山田好秋, 前田健康: 歯科医学教育へのPBLチュートリアル導入-新潟大学歯学部のこころみ-. 日歯教誌, 22:58-71, 2006.

- 11) 島田達雄, 毛利 環, 内藤 徹, 朝日藤寿一, 星隆夫, 森田修一, 齋藤 功, 花田晃治, 平下斐雄: 歯科矯正学卒後研修カリキュラムにおけるEBM関連教育の実施状況. 日歯教誌, 22:96-101, 2006.
- 12) 星 隆夫, 森田修一, 中間純子, 小林正治, 齋藤功: Skeletal Anchorage System (SAS)を併用して治療を行った正中線の偏位および臼歯関係に左右差を認めたアングルII級叢生症例. 甲北信越歯誌, 13:15-21, 2006.
- 13) 高木律男, 福田純一, 小野和宏, 飯田明彦, 朝日藤寿一, 寺田員人, 齋藤 功: Hotz床併用2段階口蓋形成法の長期予後. 日口蓋誌, 31:245-252, 2006.
- 14) 若松孝典, 花田晃治, 林 孝文, 齋藤 功: Volume rendering法を用いた偏位を伴う顎変形症患者における咬筋の体積計測. 新潟歯学会雑誌, 36:233-238, 2006.
- 15) 竹山雅規: 凍結保存歯の移植を併用した唇顎口蓋裂症例. Monograph of Clinical Orthodontics, 27:56-66, 2006.
- 17592134, 2006.
- 3) 澤田美穂: エストロゲンによる骨芽細胞の新たな調節機構-ギャップ結合に与える影響を解明する-. 平成18年度科学研究費補助金, 若手研究(B), 研究課題番号17791573, 2006.
- 4) 渡邊直子: 骨粗鬆症における下顎頭骨変化-咀嚼による機械的応力が骨構造に与える影響の解明-. 平成17年度科学研究費補助金, 若手研究(B), 研究課題番号17791574, 2006.
- 5) 越知佳奈子: 顎顔面非対称症例におけるデザインパターンとの設計と臨床応用. 平成17年度科学研究費補助金, 若手研究(B), 研究課題番号17791517, 2006.
- 6) 原田史子: 神経栄養因子の歯根膜神経改造への関与-歯の移動実験モデル. 平成17~18年度科学研究費補助金, 若手研究(B), 研究課題番号17791519, 2006.
- 7) 齋藤 功, 林 孝文, 山村健介, 葭原明弘, ステガロユ・ロクサーナ, 河野芳郎: 米国・南カリフォルニア大学(USC)におけるPBL研修報告書(総頁数:188頁). 平成18年度文部科学省・特色GP支援事業, 2006.

#### 【著書】

- 1) 齋藤 功: 歯の移動の臨床バイオメカニクス-骨と歯根膜のダイナミズム-. (下野正基 他編). 加齢と歯の移動. 205-216頁, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2006.
- 2) 山田一尋: 歯の移動の臨床バイオメカニクス-骨と歯根膜のダイナミズム-. (下野正基 他編). 顎関節の機能. 顎関節に配慮すべき臨床的ポイント. 188-197頁, 198-204頁, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2006.

#### 【商業誌】

- 1) 田中みか子, 江尻貞一, 渡邊直子: エストロゲン欠乏による歯槽骨骨梁構造および固有歯槽骨の脆弱化に関する基礎的検討. Osteoporosis Japan, 14:20-24頁, 2006.

#### 【研究成果報告書】

- 1) 森田修一, 花田晃治, 朝日藤寿一, 小野和宏, 高木律男, 齋藤 功, 寺尾恵美子, 毛利 環, 舘村卓, 幸地省子, 須佐美隆史, 大塚純正, 根来武史, 北井則行: 片側性唇顎口蓋裂患者に関する他施設比較研究. 平成14~17年度科学研究費補助金, 基盤研究(B)(2), 研究課題番号14370692, 2006.
- 2) 山田一尋, 齋藤 功, 小林 博, 細貝暁子: 骨格性下顎骨偏位症の下顎運動に伴う頭部運動, 身体動揺と全身機能の関連の解明. 平成17~19年度科学研究費補助金, 基盤研究(C), 研究課題番号

#### 【講演・シンポジウム】

- 1) 齋藤 功: 新潟大学医歯学総合病院矯正歯科診療室における矯正治療の現況. 平成18年度新潟大学歯学部同窓会・総会学術講演会, 新潟, 2006. 4.22.
- 2) 齋藤 功: バランスのとれた顔立ちとは? -矯正歯科医の立場から- (シンポジウム『コミュニケーションと笑顔』). 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11.
- 3) 山田一尋: 顎関節症と歯科矯正臨床. 第20回日本顎関節学会学術講演会, 鶴見, 2006.10. 5.

#### 【学会発表】

- 1) Watanabe A, Mohri T, Watanabe Y, Bondemark L, Saito I: Orthodontic Treatment Need in 11-14 year-old Japanese School Children. 82<sup>nd</sup> Congress of the European Orthodontic Society, Vienna, Austria, 2006.7.4-8, abstracts:138, 2006.
- 2) Mohri T, Watanabe A, Watanabe Y, Miyazaki H, Shimada T, Sasaki Y, Ansai T, Katoda K, Stenvik A, Bondemark L, Saito I: Objective and Subjective Orthodontic Treatment Need in Japanese School Children. The XIX Congress of the Nordic Orthodontic Society, Båstad, Sweden, 2006.8.24-26, abstracts:13, 2006.
- 3) Harada F, Jabbar S, Aita M, Ohishi M, Saito I, Maeda T: Involvement of NT-4/5 in regeneration

- of the periodontal Ruffini ending. Society for Neuroscience 36th annual meeting, Atlanta, 2006.10.14-18, <http://www.abstractsonline.com>.
- 4) Jabbar S, Harada F, Saito I, Maeda T: The involvement of Neurotrophin-4/5(NT4/5) in the Regeneration of Periodontal Ruffini Endings following transection of the Inferior Alveolar Nerve. 平成18年度新潟歯学会総会, 新潟, 2006. 4.22, 新潟歯学会誌, 36:107-108, 2006.
  - 5) 小林正治, 毛利 環, 加納浩之, 齋藤 功, 齋藤 力: 術前矯正治療に歯科インプラントをアンカーとして応用した多数歯先天欠如を伴う下顎前突症の1例. 第60回日本口腔科学会, 名古屋, 2006. 5.11-12, 日本口腔外科学会雑誌, 56:178, 2006.
  - 6) 朝日藤寿一, 森田修一, 毛利 環, 小野和宏, 高木律男, 寺尾恵美子, 幸地省子, 須佐美隆史, 倉林仁美, 岩田敏男, 館村 卓, 大塚純正, 根来武史, 齋藤 功: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設共同研究 -Part 7 多施設共同研究の問題点について-. 第30回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 白馬, 2006. 5.25-26, 口蓋裂学会雑誌, 31:93, 2006.
  - 7) 碓井由起子, 高木律男, 小野和宏, 齋藤 功, 朝日藤寿一, 幸地省子: 二次的顎裂部骨移植の時期の違いが上顎骨の成長発育におよぼす影響について. 第30回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 白馬, 2006. 5.25-26, 口蓋裂学会雑誌, 31:164, 2006.
  - 8) 竹山雅規, 宮城尚史, 中川麻里, 小野和宏, 齋藤 力, 高木律男, 齋藤 功: 唇顎口蓋裂術後の矯正治療に関する臨床統計的調査 -二段階口蓋形成法と一段階口蓋形成法との比較-. 第30回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 白馬, 2006. 5.25-26, 口蓋裂学会雑誌, 31:210, 2006.
  - 9) 児玉泰光, 飯田明彦, 山中正文, 小野和宏, 福田純一, 奈良井省太, 高木律男, 碓井由起子, 小林孝憲, 永田昌毅, 寺尾恵美子, 齋藤 功: 口蓋裂患者に対する上顎前方移動術が鼻咽腔閉鎖機能に及ぼす影響について -客観的評価基準としてナゾメーター検査を用いた検討-. 第30回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 白馬, 2006. 5.25-26, 口蓋裂学会雑誌, 31:224, 2006.
  - 10) 小田陽平, 泉 直也, 小林正治, 朝日藤寿一, 齋藤 功, 齋藤 力: 両側唇顎口蓋裂を伴った先天性絞扼輪症候群の1例. 第30回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 白馬, 2006. 5.25-26, 口蓋裂学会雑誌, 31:230, 2006.
  - 11) 三瀬 泰, 澤田美穂, 森田修一, 齋藤 功: Skeletal Anchorage System (SAS) を用いた矯正治療上の留意点. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:28, 2006.
  - 12) 毛利 環, 小林正治, 渡辺洋平, 齋藤 力, 齋藤 功: 下顎臼後部縁下オッセオインテグレートド・インプラントをアンカーとして術前矯正治療を行った6小臼歯先天欠如を伴う下顎前突症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:30, 2006.
  - 13) 長沼一雄: 上顎第一大臼歯アンキローシスを伴った偏位咬合. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:42, 2006.
  - 14) 宮城尚史: 下顎切歯の先天欠如を伴うアングルI級症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:42, 2006.
  - 15) 竹山雅規: 凍結保存歯の移植を併用した片側性唇顎口蓋裂症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:48, 2006.
  - 16) 朝日藤寿一: 両側性唇顎口蓋裂の1治療例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:49, 2006.
  - 17) 渡邊直子: 上顎右側切歯, 下顎両側側切歯の先天欠如を伴った左側唇顎口蓋裂症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:50, 2006.
  - 18) 金谷登紀子: 上顎中切歯の歯根吸収を伴うアングルI級叢生症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:57, 2006.
  - 19) 原田史子: 上下顎前歯部歯槽骨切り術およびオトガイ形成術を併用した上顎中切歯の短根を伴う上下顎前突症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:58, 2006.
  - 20) 澤田美穂: Skeletal Anchorage System (SAS) を併用して治療を行った中立咬合・両突歯列・下後退顎・叢生歯列弓症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:61, 2006.
  - 21) 中村順一: 矯正治療中に見出された下顎小臼歯部過剰歯を伴う上下顎前突症例. 第21回甲北信越矯正歯科学会大会, 高岡, 2006. 6.11, 第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録:63, 2006.

- 22) 小栗由充：先天欠如歯を伴った上下顎前突症例。第21回甲北信越矯正歯科学会大会，高岡，2006.6.11，第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録：64，2006。
- 23) 中川麻里：上顎中切歯の歯根吸収を伴った上顎前突症例。第21回甲北信越矯正歯科学会大会，高岡，2006.6.11，第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録：64，2006。
- 24) 布田花子：咬合性外傷に起因した下顎中切歯の歯肉退縮を伴う上突咬合，叢生症例。第21回甲北信越矯正歯科学会大会，高岡，2006.6.11，第21回甲北信越矯正歯科学会大会プログラム抄録：65，2006。
- 25) 福田純一，高木律男，小野和宏，児玉泰光，山中正文，齋藤 功，川原のぞみ：末端肥大症が疑われた骨格性下顎前突症の1例。第16回顎変形症学会総会，幕張，2006.6.21-22，日顎変形誌，16：78，2006。
- 26) 児玉泰光，高木律男，小野和宏，福田純一，山中正文，西山秀昌，林 孝文，渡邊直子，齋藤 功：カスタムメイド人工骨を用い顔面非対称を改善したHemifacial microsomiaの1例。第16回顎変形症学会総会，幕張，2006.6.21-22，日顎変形誌，16：81，2006。
- 27) 越知佳奈子，山添清史，松原大樹，森田修一，齋藤 功：歯列-歯槽部の三次元解析システムの開発。第16回顎変形症学会総会，幕張，2006.6.21-22，日顎変形誌，16：130，2006。
- 28) 若松孝典，八巻正樹，宮城尚史，齋藤 功：顔面非対称症例の術前後におけるスマイルラインの変化について。第16回顎変形症学会総会，幕張，2006.6.21-22，日顎変形誌，16：135，2006。
- 29) 鳥巢隆弘，山田一尋，福井忠雄，八巻正樹，中村順一，齋藤 功：顎顔面形態と筋突起形態との関連性について-横断的資料を用いた統計的評価-。平成18年度新潟歯学会第1回例会，新潟，2006.7.8，新潟歯学会誌，36：85-87，2006。
- 30) Naoki Sakurai, Shoji Kohno, Takafumi Hayashi, Hidemasa Nishiyama, Ritsuo Takagi, Kazuhiro Yamada, Shuichi Nomura, Yoshiaki Arai, Kazuto Terada, Hisashi Miyajima, Kazumasa Kato, Akiko Hosagai, Hisao Ajima, Naoko Ii.: A trial Web-based teledentistry system for temporomandibular disorders patients. 第19回日本顎関節学会，名古屋，2006.7.19-21，プログラム・抄録集：125，2006。
- 31) 相川 弦，高田佳之，小林正治，山田一尋，林 孝文，齋藤 力：顎変形症患者の顎関節症状について顎変形症患者の顎関節症状について。第19回日本顎関節学会，名古屋，2006.7.19-21，プログラム・抄録集：247，2006。
- 32) 安島久雄，荒井良明，寺田貝人，高木律男，西山秀昌，山田一尋，高田佳之，小野由起子，桜井直樹，井伊直子：新潟大学医歯学総合病院顎関節治療班における顎関節症への対応。第19回日本顎関節学会，名古屋，2006.7.19-21，プログラム・抄録集：253，2006。
- 33) 飯田明彦，高木律男，丸山 智，朔 敬，齋藤 功：第三大臼歯に関連した歯根吸収により抜歯に至った下顎第二大臼歯の2症例。平成18年度新潟歯学会第2回例会，新潟，2006.11.11，新潟歯学会誌，36：95，2006。
- 34) 竹村 史，森田修一，八巻正樹，齋藤 力，高木律男，齋藤 功：偏位を伴う下顎前突症患者における中顔面正貌軟組織の術後変化。平成18年度新潟歯学会第2回例会，新潟，2006.11.11，新潟歯学会誌，36：101-102，2006。
- 35) 福嶋牧子，金谷登紀子，金子 昇，星 隆夫，森田修一，宮崎秀夫，齋藤 功：マルチブラケット装置装着患者に対する機械的ブラーク除去法として結晶性セルロースを用いて air polishing の有用性について。平成18年度新潟歯学会第2回例会，新潟，2006.11.11，新潟歯学会誌，36：102，2006。
- 36) 松原大樹，寺田貝人，藤田 直，中村康雄，林 豊彦，齋藤 功：骨格性下顎前突症患者の口唇周囲軟組織三次元運動解析。平成18年度新潟歯学会第2回例会，新潟，2006.11.11，新潟歯学会誌，36：104-105，2006。
- 37) 毛利 環，渡辺 厚，渡辺洋平，宮崎秀夫，島田達雄，加登田恵子，齋藤 功：わが国の11-14歳児の客観的および主観的歯科矯正治療必要度。第65回日本矯正歯科学会大会，札幌，2006.9.13-15，プログラム・抄録集：201，2006。
- 38) 中川麻里，森田修一，八巻正樹，大石めぐみ，齋藤 功：矯正患者にみられた歯数異常について-1993年から2006年までの臨床統計調査-第65回日本矯正歯科学会大会，札幌，2006.9.13-15，プログラム・抄録集：235，2006。
- 39) 福井忠雄，依岡正宏，越知佳奈子，竹山雅規，八巻正樹，齋藤 功：矯正保険診療における診療録記載支援システムの開発 第2報。第65回日本矯正歯科学会大会，札幌，2006.9.13-15，プログラム・抄録集：239，2006。
- 40) 松原大樹，寺田貝人，中村康雄，林 豊彦，齋藤 功：骨格性下顎前突症患者における口唇周囲軟組織の三次元運動解析。第65回日本矯正歯科学会大会，札幌，2006.9.13-15，プログラム・抄録集：263，2006。

- 41) 福嶋牧子, 金谷登紀子, 金子 昇, 星 隆夫, 森田修一, 宮崎秀夫, 齋藤 功: マルチブラケット装着患者に対する結晶性セルロースを用いた air polishing の有用性について. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 269, 2006.
- 42) 朝日藤寿一, 渡邊直子, 渡辺 厚, 小原彰浩, 金山 潔, アルグナイド タラト ハッサン, 毛利 環, 森田修一, 寺田一員, 高木律男, 齋藤 力, 小野和宏, 須佐美隆史, 幸地省子, 齋藤 功: 新潟大学における G0slon Yardstick による片側性唇顎口蓋裂症例の咬合評価 - 2 段階口蓋形成術の影響について. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集, 273, 2006.
- 43) 古里美幸, 森田修一, 朝日藤寿一, 竹村 史, 小野和宏, 高木律男, 齋藤 力, 齋藤 功: 片側性唇顎口蓋裂患者の成長発育に伴う外鼻形態の変化について. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 273, 2006.
- 44) AL-Gunaid T, Yamada K, Saito I: Soft tissue cephalometric norms for Yemeni adults. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 325, 2006.
- 45) AL-Gunaid T, Yamada K, Saito I: Orthognathic surgery norms of Yemeni adult males. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 378, 2006.
- 46) 小野和宏, 小林正治, 齋藤 力, 福田純一, 高木律男, 朝日藤寿一, 竹山雅規, 齋藤 功: 唇顎口蓋裂の上顎歯列狭窄に対する骨延長法の応用. 第 51 回日本口腔外科学会総会, 北九州市, 2006.10. 12-13, 日本口腔外科学会雑誌総会特別号 52: 51, 2006.

#### 【研究会発表】

- 1) 朝日藤寿一, 齋藤 功: JAPAN CLEFT 2002-2005 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設共同研究について. 第 1 回日本における口唇裂口蓋裂治療に関する多施設共同研究を考える会, 札幌, 2006. 9.19.
- 2) 朝日藤寿一, 齋藤 功: 片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設共同研究をいかに進めてゆくか - これまでの問題点について -. 第 2 回日本における口唇裂口蓋裂治療に関する多施設共同研究を考える会, 東京, 2007.1.11.

#### 【その他】

- 1) 金谷登紀子: 学位論文紹介 - 矯正装置装着に伴うカリエスリスクおよび口腔内細菌叢の変化に関する研

究 - . 新潟歯学会雑誌, 36: 93-95, 2006.

- 2) 八幡 誠: 学位論文紹介 - 下顎骨偏位と下顎頭位および下顎窩形態との関連性について, ヘリカル CT による検討 -. 新潟歯学会雑誌, 36: 73-75, 2006.
- 3) 渡辺 厚: 学位論文紹介 - 日本における 11 歳から 14 歳児を対象とした Index of Orthodontic Treatment Need(IOTN) -. 新潟歯学会雑誌, 36: 77-79, 2006.
- 4) 齋藤 功, 前田健康, 山田好秋: 留学生大学院教育の実質化による国際貢献 - 留学生のための実効性を高めた大学院教育 -. 大学教育改革プログラム合同フォーラム, 横浜, 2006.11.12-13, 大学教育改革プログラム合同フォーラム (選定取組の紹介) 93, 2006.

#### 小児歯科学分野

##### 【論文】

- 1) Yagi K, Matsuyama J, Mitomi T, Taguchi Y and Noda T: Changes in the mouthful weights of familiar foods with age of five years, eight years and adults. *Ped Dent J*, 16: 17-22, 2006.
- 2) Noda T, Takagi M, Hayashi-Sakai S, and Taguchi Y: Eruption disturbances in Japanese children and adolescents. *Ped Dent J*, 16: 50-56, 2006.
- 3) Hayashi-Sakai S, Sakai J, Sakamoto M, Kouda F and Noda T.: The gradient of microhardness in cross-sectioned sound primary molars. *J JSEM*, 6: 13-18, 2006.
- 4) Kijima H, Shingai T, Takahashi Y, Kajii Y, Fukushima S, Taguchi Y, Noda T and Yamada Y: Nitric oxide modulates elicitation of reflex swallowing from the pharynx in rats. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 291:651-656, 2006.
- 5) Kawagishi E, Nakakura-Ohshima K, Nomura S and Ohshima H: Pulpal responses to cavity preparation in aged rat molars. *Cell Tissue Res*. 326:111-22, 2006.
- 6) Tomizawa M, Sano T and Noda T: Oral conditions in Japanese infants: A retrospective study. *Ped Dent J*, 17:65-72, 2007.
- 7) Iizawa F, Nakakura-Ohshima K, Numa N, Noda, T: A case of eruption guidance for eruption disturbances of the bilateral second molars caused by supernumerary teeth. *Ped dent J*, 17: 100-105, 2007.
- 8) 木島 寛, 真貝富夫: 脳幹部での嚥下の情報伝達機構: